



白内恵美子 議員

Q 高齢者の憩いの場と健康増進の拠点づくりを

A 介護予防は町の一番の政策課題



健康づくりで介護予防(あじさいの会)

問 高齢者が地域で明るく元気に暮らすことが、歳出削減につながります。そこで、高齢者の憩いの場と健康増進のための拠点づくりを提案します。

(1) 保健師と公民館職員が東北福祉大学の指導員養成講座を受講し、すべての公民館で「憩いの場・健康づくり」を実施する。

(2) 町民と健康推進員合わせて100名の準指導員を養成し、地域の集会所で体操やゲームを指導する。

(3) 保健師は地域を回り

生活習慣病予防の栄養指導や体操を指導する。

(4) 町ホームページに「健康講座」を掲載する。

(5) 介護予防は早急に取り組む最大の課題であり、大胆な施策が必要では。

答 滝口町長

町財政が厳しい要因に、医療費・介護費・中核病院負担金の7億5千万円があります。年々これら増加を減らすことが町の一番の政策課題だと思っています。

(1) 健康運動実践指導認定者が3名おり、生涯学習課と連携し推進したい。

(2)(3) 一般を含めた講習会を検討。健康づくりプランを策定し全地区に広げたい。6区集会所でハッスルクラブ開催、健康づくりサポーターや地区の指導者を養成します。

(4) 健康講座や健康づくりサークルを掲載します。

(5) 住民の意識が健康重視ということであれば、今までの考えをがらりと変えねばならないと思います。

問 昨年3月、3町合併は破綻しました。その原因をすべて、町長は大河原町にありとしました。しかし、私はもう一歩原因を掘り下げて見て、法定協議会長の責任、大河原町対策の戦術の誤りを買ひ、合併を熱望してきた大河原町民に冷静に判断されたものと以前指摘しました。

その後、住民投票の結果から、柴田町と村田町の2町合併を先行し、大河原町を第2次吸収合併する案は、町長から否定され、そして、町長は自立の町を宣言しました。県が示した2市7町の合併の提案、その案で柴田町はいくのかどうか。合併の真意は。

県が提案してきた望ましい新たな広域合併は、2市7町でした。住民サービスをこれまでどおりにしていくため、また、各町の信頼関係を再度築く上からも、県の推進構想に基づき、県の指導する広域的な協議の中で合併論議が始まっていくこととなります。そのことが新たな合併機運の高まりにつながっていくと確信しております。

Q 新たな合併をどう考えるのか



佐藤輝雄 議員

A 県の広域合併を進めます



広域サービスの拠点「仙南地域広域行政事務組合」